

教員名	大戸 美也子 (OHTO Miyako)
所 属	子ども発達教育研究センター
学 位	
職 名	教授
URL/E-mail	

◆研究キーワード

養育力 / 保護者論 / 幼保一体的運営

◆主要業績

・榎田二三子 武田隆子 義永睦子 滝川孝子 大戸美也子「親の養育力をエンパワーする環境構成の研究ー附属幼稚園保護者の子育て意識調査を中心に」武蔵野大学人間関係学部紀要 3：49－62，2006

◆研究内容

2つの研究テーマについて、調査・研究を実施した。

1. 親の養育力をエンパワーする環境構成の研究
2. 幼稚園・保育園の一体的運営に関する課題の解明

1のテーマについては、東京近郊、横浜市、埼玉県鴻巣市の3地区の600人の保護者を対象に①子育てして楽しいこと、負担に感ずること、②子育てに必要なパワー（養育力）と現在の保有量等について調査し、子育てに関する意識調査を実施し、育児不安を持つ保護者は5%以下であり、大多数は豊かに養育力を持っていることがわかった。また、幼稚園、保育所における保護者向けの教育活動の実践を集め、多様な実態について分析中である。

2のテーマは、幼保一体的施設である「総合施設」の運営実態を明らかにするために全国35のモデル園を訪問し、インタビュー法により調査を進行中である。

◆教育内容

「保育臨床演習Ⅰ」（前期）

乳幼児を持つ保護者の実像をとらえ、彼らの養育力をパワー・アップする方法を探究することを目的に、調査票の作成法、各園の調査結果と全国調査等との比較及び、子どもと生きる力を育むための教材（VTR、絵本等）を具体的に検討した。

「比較保育学Ⅰ」（後期）

「乳幼児保育の質を高める取り組み」、「幼保一元化の取り組み」等の保育課題について、今期は、北欧五ヶ国、独・仏・伊、及びニュージーランド等、先進国の保育政策と実践と比較し、これらの取り組みの可能性を検討した。また、ニュージーランド、フランス、ドイツ、ウクライナの専門家を直接授業に招き、講演と話し合いの機会も設定した。

「保育実践研究Ⅰ・Ⅱ」（通年）

受講生の申告した保育実践上の課題について、各現場を訪れそれらを検証しながら課題解決の方法を具体的に検討した。

◆将来の研究計画・研究の展望

（１）親の養育力をエンパワーする環境構成の研究

乳幼児を持つ保護者の子育てに関する意識調査の結果（２００５）、大多数が豊かな養育力を保有していることが実証された。また、保護者は、自らの養育力をエンパワーする機会として、体を動かす、手先を使う等のワークショップ系の活動を求めていることが明らかとなった。この結果から、具体的に「手作り絵本」のワークショップを実施し、その達成度と養育力との関係について実証的に検討し、保護者の健全育成の方法を開発中。

（２）幼保一体的運営の質を保つ条件の課題の研究：

平成１７年度から実施された幼稚園と保育園の一体的運営施設である総合施設の３５モデル園について、運営の実態を５つの側面（①運営の主体、②幼保の１日の流れと融合プログラムの内容、③保育者の勤務シフト、④保育者の連絡・研修の持ち方、⑤保護者会の持ち方）から実地調査し、保育と教育の一体的運営の質を保つための条件を明らかにする。この研究成果をもとに新設の「認定 子ども園」運営の基本的条件を提案していく。

（３）基本生活習慣の獲得過程における学習内容の研究（その１ 排泄行為における学び）

幼児初期の発達課題の達成過程におけ「学び」を実証的に検証する第１弾で、排泄行為を中心に二つの側面から分析していく。（１）保育所によって排泄行為の自立の過程で子どもに求めるハードルがどのように異なるか？（２）子どもにとって越えることの難しいハードルはどこかを発達別にとらえる。この研究成果をもとに、３歳未満児における学びの１側面を明らかにし、保育における教育の在り方を提案していく。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

多摩地区の信用金庫の社会貢献事業として、乳幼児を持つ親支援を計画しており、その具体化のために基本調査の項目及びプログラムの内容検討に参画中。

◆受験（講）生等へのメッセージ

幼稚園と保育園が教育と保育を分担し棲み分けていた時代が終わり、就学前の子どもの保育と教育に明るいハイブリットな保育者が求められています。アプリカ特設講座は、現職保育者の学び直しの機会を提供します。新しい時代の保育者を目指す方々を歓迎します。